

多彩な表情 石垣回廊 みせます

金沢城址公園 内外に見学ルート

県、部局横断で研究チーム

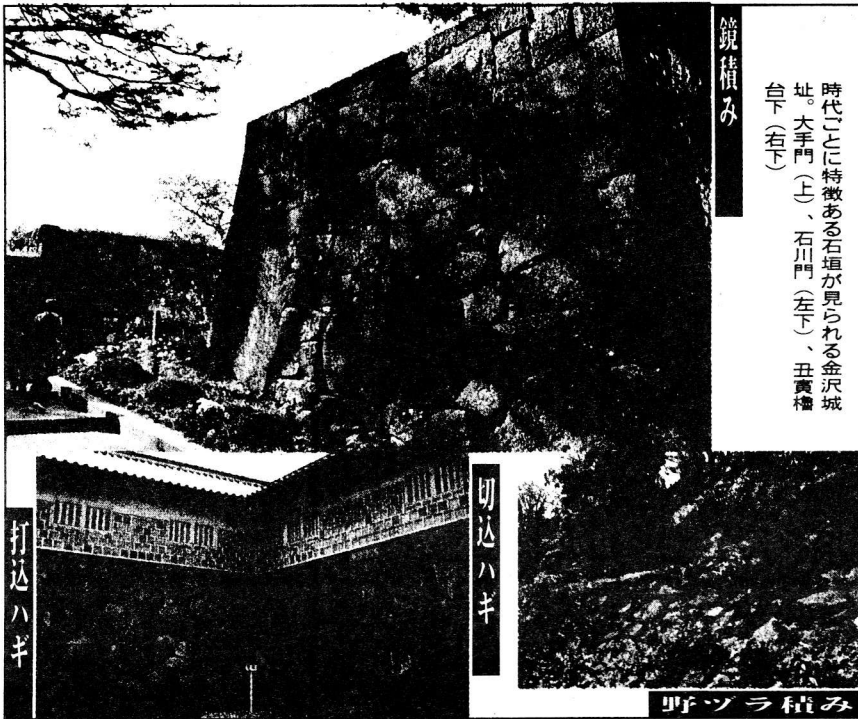
石川県は、加賀藩祖・前田利家以来の歴史を伝える金沢城址公園の石垣の技とデザインを内外から見ることが出来る「回廊」作りに着手する。緑化フェア後の公園整備の柱に位置付け、庁内に部局横断の研究チームをつくり、県丸の内駐車場など石垣景観の妨げとなる施設の移転も含めて検討を始める。郷土に学ぶふるさと教育につなげるとともに、県都の真ん中に残る文化財を全国に発信する。

丸の内駐車場
移転視野に ガイドツアーも

計画では、NHK大河
ドラマ「利家とまつ」放

景観積み

時代ごとに特徴ある石垣が見られる金沢城
址。大手門(上)、石川門(左下)、丑寅櫓
台下(右下)



野ツラ積み

切込ハギ

打込ハギ



映に伴い三月下旬から開幕する加賀百万石博に合わせ、来場者が城内外の石垣に身近に触れられる散策路を設け、要所に石積みの違いや時代背景を紹介したパネルなどを置く。学芸員や郷土史家が石垣に沿って案内しながら、特徴を説明するガイドツアーも実施する。

石工の技が細部まで見えるように、石積みの上の部やすき間に生える樹木の根や枝を生態系に影響が出ない範囲で取り除くなどの工夫も施す。城の外周では、宮守坂横の県体育館や県丸の内駐車場、その隣りにある住宅金融公庫や中小企業金融公庫の支店が入居する金沢中央ビルの背後にも保存状態の良い高石

垣が多く残っており、見学にふさわしいコースになり得るといふ。県では、県体育館などの施設が「城外周の景観を考えた場合に障害になる」(県幹部)としており、土木、文化財、都市計画、観光などの視点から施設の移転や跡地の埋蔵文化財調査、整備などの計画作りを進めることにしている。「石垣回廊」の整備については、先月十九日に開かれた金沢経済同友会との意見交換会で、同会側の求めに応じ、谷本正憲知事が取り組む姿勢を明らかにしていた。

金沢
まち
通信

——村井 淳志 ③

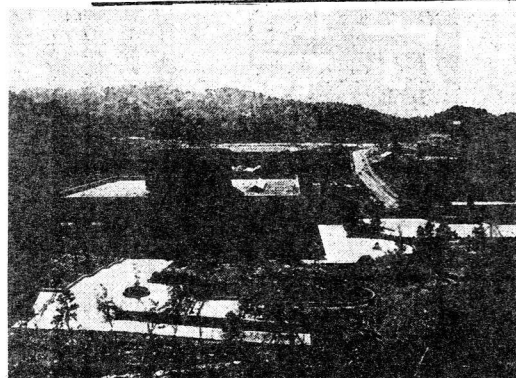
金大移転10年をへて

スであちこち道がふさがれ、資材を積んだトラックが行き交うだけの殺伐とした町だった。

お店も住宅もほとんどなく、当然、バスの便も極端に悪い。教育学部の移転はまだ三年先だった。正直言って「こんな所に来るの」と、暗瀬(たん)たる思いだった。

た。年配の先生方も「除雪費がかさんで研究費が削られるよ」「城址内だから人気があったのに、学生が来なくなるんじゃないの？」などと、ぼや

次、東部の丘陵地・角間地区に移転してきた。そのころの角間や若松近辺は、まだ工事用のフェン



筆者の研究室から見える金沢大キャンパスの風景。正面の建物は付属図書館

の体育館の建設費が翌年に繰り越されてしまった。研究室の備品費用も切りつめられ、洗面台にかけの鏡も買えない。しかたなく、もう立ち入り禁止になっていた城址内の自分の研究室に忍び込み、古い鏡をはずして角間にもつてきた(今でも使っている)。

ところがわずかの七八年ほどで、若松・角間地区は見違えるように利便性がよくなった。途中、ジャスコの建設を請け負っていたゼネコンが倒産して、どうなることかと

思ったけれど無事開店したし、大型書店やコンビニもできた。鈴見橋からジャスコまでの県道の両側には食・物屋さんが次々と開店した。先日は、待ちに待った小立野トンネル(天徳院・田井町)が開通し、角間から西南部方面に行くバス路線も開設された。これでようやく、愚子が通う保育園に乗り換えなしでお迎えに行けるようになった。

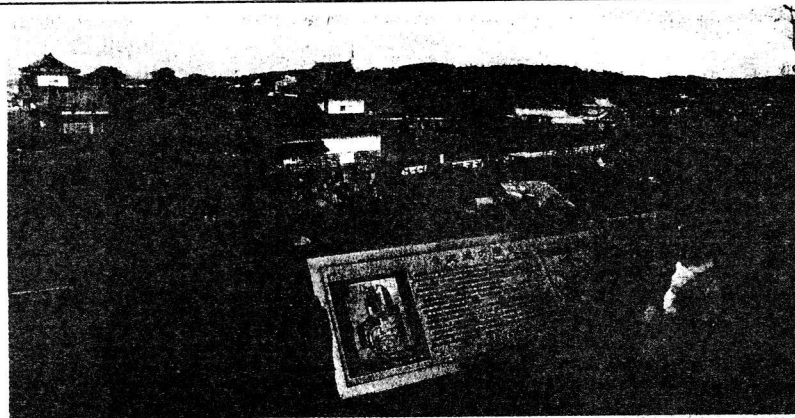
当初は罵詔雑言にあっただよに感じていた大学人が多かったが、今になって総括してみても、大学移転とそれを移した東部地域の再開発は、ひとま

ず成功だったのではない。もちろん城址内のミズバシヨウの池や満開の桜、タヌキが出没する森も懐かしいけれど、それは県民に広く開放された。その一方、角間の四季の移ろいにも、だんだん愛着がわいてきた。

ただ、かつて田上小学校に勤務しておられた先生は「若松地区は一面のブドウ畑があつて、静かな田園地帯だったんだよ」と、変貌(ぼう)する地域に複雑な表情だ。(金沢大助教授)

「金沢城公園」開放

観光客、散策楽しむ



園内を見学する来園者

金沢城公園

全国都市緑化フェアのしていた金沢城公園は、会場撤収作業のため休園。十二日、再び開放され、

市民や観光客が城の石垣片手に園内を巡り歩く姿が見られた。五十間長屋の新しい新所を堪能した。同公園は十八日、金沢城址公園から改称されたばかりで、園内では、来年三月に開幕する加賀百万石博に向けた工事も進んでいる。

開園時間は二月二十八日まで午前八時から午後四時半、三月一日からは午前七時から午後六時となる。入園は無料。菱屋・橋爪門統橋をはじめ、三の丸広場、本丸園地、三十間長屋などが見学できる。再開放初日の二十三日は、観光客らがカメラを

百円。

四時半まで入館でき、入



ツノクマ

北 陸 中 日

2002年(平成14年)1月15日(火曜日)

中日春秋

空を飛べない鳥がいる。タチヨウやペンギンたちだ。ニワトリもその仲間かもしれない。でも昨日まで自由にはばたいていた鳥が、不意に、飛べなくなったらどうしたらいいのだらう▼そんな難局に直面した鳥を主人公にした絵本「リトルターン」(B・ニューマン著、集英社)が静かに読者を広げている。リトルターン

とは、海鳥コアジサシのこと。毎日すこぶる快適に、またいくぶん退屈に暮らしていた彼がある日突然、飛べなくなってしまう▼翼やしっぽをチエックしても、どこも悪くない。そうして彼は気づく。壊れたのは外部ではなく、飛ぶための信念や本性、つまり内面が失われたのだ。と。失意と困惑。彼は、やむなく砂浜という未知の世界で暮らし続ける。星や花、カニ

に出会い、自分の内面をのぞきながら▼やがてリトルターンは、友達になったカニに言われる。「きみは飛ぶ能力を失ったんじゃない。ただどこかに置き忘れただけだ。」そしてある朝、自分のそばに自分の影があることに気づく。置き忘れた大事なものを発見したかのよう。彼は、ふたたび空に戻る▼訳者の五木寛之氏が「これは挫折者、引きこもりの物語」と言

っている。三十年前に世界的ベストセラーになった、やはり彼の訳本「かもめのジョナサン」は、上昇志向のいかにも二十世紀的な寓話だった。いまは逆に飛べなくなっている鳥たちの時代だとも▼編集者によると、実際に読者の大半は、三、四十代の男性だといふ。企業のリストラに直面する中堅の男性の共感を呼ぶのだらう。

60500ヘクタルの聖域

緑の回廊は奥羽山脈など全国十カ所で指定されているが、点在する保護林を面的に囲んで設定するのは白山山系が初めてという。

白山山系「緑の回廊」

多様な動植物を守るため石川、富山、福井、岐阜四県にまたがる白山山系国有林に「緑の回廊」を設ける計画で、関係自治体や団体などをつくる設定委員会(座長・林進岐阜大教授)が十三日、金沢市内で開かれ、回廊面積を約六万五千ヘクタールとすることを決めた。近畿中国、中部両森林管理局は所定の手続きをへて四月から指定する。



初の包括指定 7保護林結ぶ

これによって野生動物の移動ルートを確保し、種の保存など生物多様性の保全に努める。指定後は生態系に配慮し、公共性の高い場合を除き林地開発を規制し、伐採にも一定のルールを敷く。現地に看板を立てるほか、インターネットのホームページで啓発する。動物の行動と植生と設定することにした。

この日の審議で委員の多くは、森林環境教育への活用を期待を寄せ、地域の人材育成などを強調した。



「初夏の尾根にて」

イラスト：竹中敏

事務局長・「やまざと」編集長辞任予告

15期 舟田 節子

- ・OB会は、事務局員・役員とも、OB・現役懇親会の際の会費無料のみが特典の、ボランティアで運営されています。
- ・会報送付会員（＝会費納入会員）は、会費納入お願い（イエローカード）添付の後、返答なしで、登録削除としてきました。現在は、添付名簿の方を連絡対象としています。
- ・削除後も、納入があれば、記載復帰としています。
- ・41期生より、入会意志を問い、会報に次年度分年会費振込票（半年度納入）を添付しています。
- ・様々なワングル観、OB観を拝聴しましたが、「…すべき」の理想論に、なんら資金の裏付けがない…「誰かが払う」「誰がやるのか」と問えば「自分は都合が悪い。誰かがやれば…」
それらはOB会に限らない話でありましょう。

誰かが払ってくれて、誰かが運営してくれて…ムツカシイ話はええじゃないか。自分は都合がいい時に利用し、いつも待っていてくれる故郷であり続けて欲しい。
そんな虫のいい願望の世話役を誰が引き継ぐのでしょうか？

- ・平成4年11月30日、私は城内部室に「35周年記念誌編集委員募集」ピラを貼りに行きました。それはナカオ山岳会の創立30周年記念祝賀会の翌日のことでした。
- ・一度は諦めた山に誘い出してくれたのは、現役からの「25周年山行の案内」でした。そして、当時は女性は未婚と制限していた（時代ですね！）ナカオに、例外で入会できたのも、ワングルの実績の御蔭でした。
- ・もう、恩返しは済みました。OB会は私物ではありません。そして今後存続し続けるために、もう譲るべき時が来ています。

- ・もしそれでは運営できないというのなら、「金大ワングルOB会」は「その程度の器」なのです。
- ・これまでのOB会のご破算。各自が「一会員」としてOB会を支えるべく 機構、会費、会報、他諸々を熟考し直してほしいと思います。
- ・IT革命進行中の現在、バーチャル山岳会も出ています。事務も編集も、その気があれば、どこにいてもやれます。
- ・すべては「やる気」の問題なのです。今回の会報には、しつこくメッセージをいれたつもりです。
- ・中にはOB会を、私の生き甲斐と受けとめていらした方もおいでようですが、総会にて「辞任」のけじめをつけます。
- ・早めに予告、謝辞とします。
「みなさん、ありがとうございました。」



OB会会計報告

(平成12年12月1日～平成14年1月20日)

《収入の部》

OB会費納入	42,000
石楠花の宴残金	2,851
野沢スキー合宿残金	2,768
預金利息	898

計	48,517
---	--------

《支出の部》

OB会報(やまざと) No.14 印刷費	250,720
" 郵送料	101,830
" 製作費	6,322
" 号外 郵送料	25,360
石楠花の宴補助	43,550
現役小屋作業補助	50,000
小屋酒場食費	17,303
小屋資材・備品等	49,648
OB・現役3年生懇親会	94,710
通 信 費	21,201
事 務 備 品	42,149
OB会報(やまざと) No.15 取材費	65,700
そ の 他	14,120

計	782,613
---	---------

《差引剰余金》

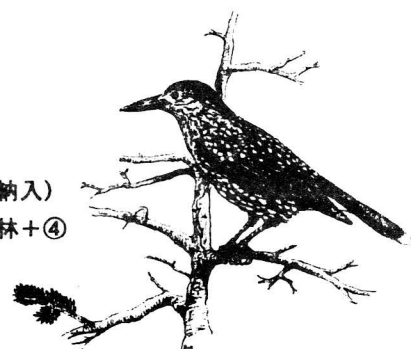
前回(12.11.30現在)繰越金	1,957,785
収 入 の 部	48,517
支 出 の 部	782,613

差 引 合 計	1,223,689
---------	-----------

*OB会費納入内訳 (○内は年数分 +は追加入 41期生より単年度納入)
 6期小川⑤ 9期山中+① 12期津田+① 13期柴田+② 22期小林+④
 24期岡原+③ 29期中道+① 41期竹内 長谷川 市山 田村

*残金中70万円は35周年記念事業の際の剰余金に相当します。
 今回の会報15号の印刷、郵送で40万円を支出の見込みです。
 平成15年度総会にむけ、残金の中での活動、ならびに連絡を行っていきます。

*平成15年総会は、添付名簿の会報送付会員を対象に案内を出します。



ホシガラス